

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月21日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人 こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷		
所在地	島根県益田市横田町713番地 (電話) 0856 (25) 2515		
評価機関名	しまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月21日

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域への恩返し」を決意した施設長が、地域福祉の充実を願い開設したホームである。デイサービスと併設している。開設して10ヶ月であるが、地域の方を含めた”徘徊SOSサポート組織”を立ち上げている。管理者は認知症ケアの経験をいかし、困難事例を受け入れ改善する支援を実践している。また利用者の安全を基本として夜勤を2人体制としている。ホームは木のしつらえで過ごしやすく、広い庭は季節ごとに利用者の憩いの場となっている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価は、主に施設長と管理者が意見をすり合わせ話し合った。職員は現場に関する項目を日ごろのケアを振り返りながら話し合った。取り組みたい課題が整理された。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 開設時より5回開催し、事業所の取り組みを報告している。参加者から提案された意見は分かりやすく記録し大切にしている。提案により連絡網の掲示・SOSサポート組織づくりなど業務改善ができた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 運営推進会議での家族からの意見は大切にしている。年2回開催している家族会時や、面会時には話を聞くようにしているが、苦情や不安は出てこない。管理者はもっと家族との意思疎通を望んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 毎月「こもれび新聞」を発行し事業所の活動を地域に広く回覧したり、保育園児との交流など行なっている。また施設長は自治会・公民館など地域の行事に積極的に参加し地域密着型サービスの啓発に努めている。

### 【情報提供票より】 (2008年2月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤2 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	3

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 200000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

#### (4) 利用者の概要 (2月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 93 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本医院 齋藤歯科医院
---------	-------------



## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設長は、地域の認知症の方が地域の力で、今迄の生活を継続できることを願い開設した。その思いをこめた理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、具体的なケアの中で理念を共有しながら、家庭の延長で自然のままのサポートをしようと話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後の活動により地域の方から、気軽に声をかけて頂けるようになった。保育園児とひな人形を作ったり、敬老会には子供神楽や琴の演奏など地元の方々に来てもらい交流している。	○	事業所からの発信や行事などの交流は整いつつあるが、さらに地域の一員としての活動を深めていかれることを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価を話し合う中で、ケアの心構えを学んだ。管理者は質の向上に意欲的である。施設長は時間をかけて現場の意見を反映する必要を感じ、次回の課題としている。	○	来年度は時間の余裕をもって自己評価に取り組み、現場の意見が十分に反映されることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	提案された意見を基に、緊急時の連絡網を見やすく掲示し、職員会議でも確認する。また一人での外出の見守りをする為に、SOSサポートとして近隣の方にも協力して頂き連絡網ができた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、開設以前より市担当者とのこの地区における福祉について話し合い、要望や提案をし連携を取り合っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「こもれび新聞」を毎月送り、また電話や面会時にホームでの様子を知らせている。遠方の方には、利用者が家族に向けて日記を書く支援をしている。	○	さらに、利用者ごとの個別のお便りも検討して頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回、そのうち1回はバーベキュー会を開き全家族が大勢集まり交流し、意見を引き出す機会としている。運営推進会議の意見も大切にしている。	○	管理者は家族の思いは把握しているが、まだまだ説明不足があると認識している。さらに家族との信頼関係を深められる事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して10ヶ月、職員の異動はない、馴染みの関係ができつつある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には、1週間の他施設研修をしている。また研修センター主催の研修には参加する。ケアの中で管理者や職員同士相談しやすい関係を大切にしながら共に学ぶ姿勢がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	採用時の研修とあわせて、年1回他施設と交換実習をしている。他施設との違いや良い所を学び、管理者につたえている。	○	さらに交流を深めグループホームの職員としての自己研鑽を期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に2～3日昼間だけ家族と一緒に体験して頂き、職員や雰囲気になれるよう対応した。すぐ入居された例もあるが、安心して頂くケアに重点をおき対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	皆で作業を分担しながら展示品作り、料理・縫い物など様々なことをしながら一緒に過ごしている。職員は利用者の言葉使いや物腰のやわらかさを学んだり、また笑顔に癒されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者の思いをしっかり聞くことを重視している。また、入浴時には利用者がゆったりとお湯につかりながら、見守る職員に素直な思いや不安な気持ちを話される。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を用いて分りやすく情報が記録されている。利用者や家族の思いにそって介護計画を作成し、職員とケア会議で話し合っている。	○	管理者は家族との話し合いや計画内容の説明をさらに充実させ、家族と共に利用者の生活支援に取り組みたいと考えている。利用者の笑顔が増える支援を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月に1回職員が担当別にモニタリングを実施していたが、毎月確認が必要と考え、実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との2～3日の温泉旅行や、年末年始の外泊など家族の希望により対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向を尊重したかかりつけ医の支援をしている。施設協力医には月1度往診をして頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する家族の意向や説明は充分行っている。今後かかりつけ医との話し合いや、職員の連携体制は重要課題としている。	○	終末期はかかりつけ医や職員の連携が必要である。早期に検討されることを望む。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者はそれぞれいろんな思いを表現されるので、状況に応じて注意しながら対応している。管理者は、利用者の誇りや尊厳を守る視点で、利用者の言動の意味を振り返る必要を課題としている。	○	管理者の課題が検討され、利用者の対応にいかされることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースで自由に過ごしているが、自室の掃除と洗濯物のダンスへの収納は、利用者各自が職員の声かけや支援を受けながら行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で食事作りをする。利用者は得意なことや出来ることをしている。また週1回はテーブルを囲み、焼きうどん・寿司など皆でにぎやかに作って食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日ほとんどの方が入浴される。一人ずつゆっくりと湯船につかり職員が見守りしている。手すりが見えにくいためテープを巻き安全対策をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	切干大根づくりで目が輝く方、千羽を目指して折鶴を折っている方などがある。利用者の誕生日には理事長よりプレゼントがあり、希望の物を買いに出かけたり、またケーキを作ってパーティーをする楽しみがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭で朝夕の散歩や天気の良い日はお茶会をする。朝市へ野菜の買出し、スーパーへの買い物など支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない支援を基本としている。外に出られた時は見守り対応をしているが、今のところ帰宅願望の強い方があり、時間帯を考慮し自動ドアを調節している。	○	見守り支援を継続し、改善を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、毎月の職員会議で緊急時の対応などを確認している。あわてず行動できるよう連絡方法を掲示し、安全のため夜勤者を2人体制としている。	○	地域住民との連携を図りながら、協力体制を築かれることを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が交替で作成している。利用者の食事量や水分摂取量は把握し記録している。	○	栄養士の専門的な観点からアドバイスを頂く機会をもたれるよう望む。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日向ぼっこが出来るたまり場や、庭が見渡せるウッドデッキなど、光と風と季節が感じられる居間である。利用者は穏やかに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスが置かれ、写真や作品が飾られている。ベッドの下に竹墨をおいたり、ぬれタオルをつるして空調に細かい配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。